

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画(案)の概要

(1) 計画策定の背景・目的

◆ プロムナード計画は、水辺と親しみながら人々が集い、交流し、まちが賑わいを取り戻すことを目的として、まちの中心部を囲むルートと拠点を配置、河川堤防を活かした整備等で、まちづくりを行う計画である。

- 悠々とした流れを感じる旧北上川
- 近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河(貞山運河)
- 潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸
- 水運で栄えた石巻の顔、各所に点在する観光資源

しかし、これらが一体的なつながりを持たず資源が活用されていない

(2) 計画の目的と期待する効果

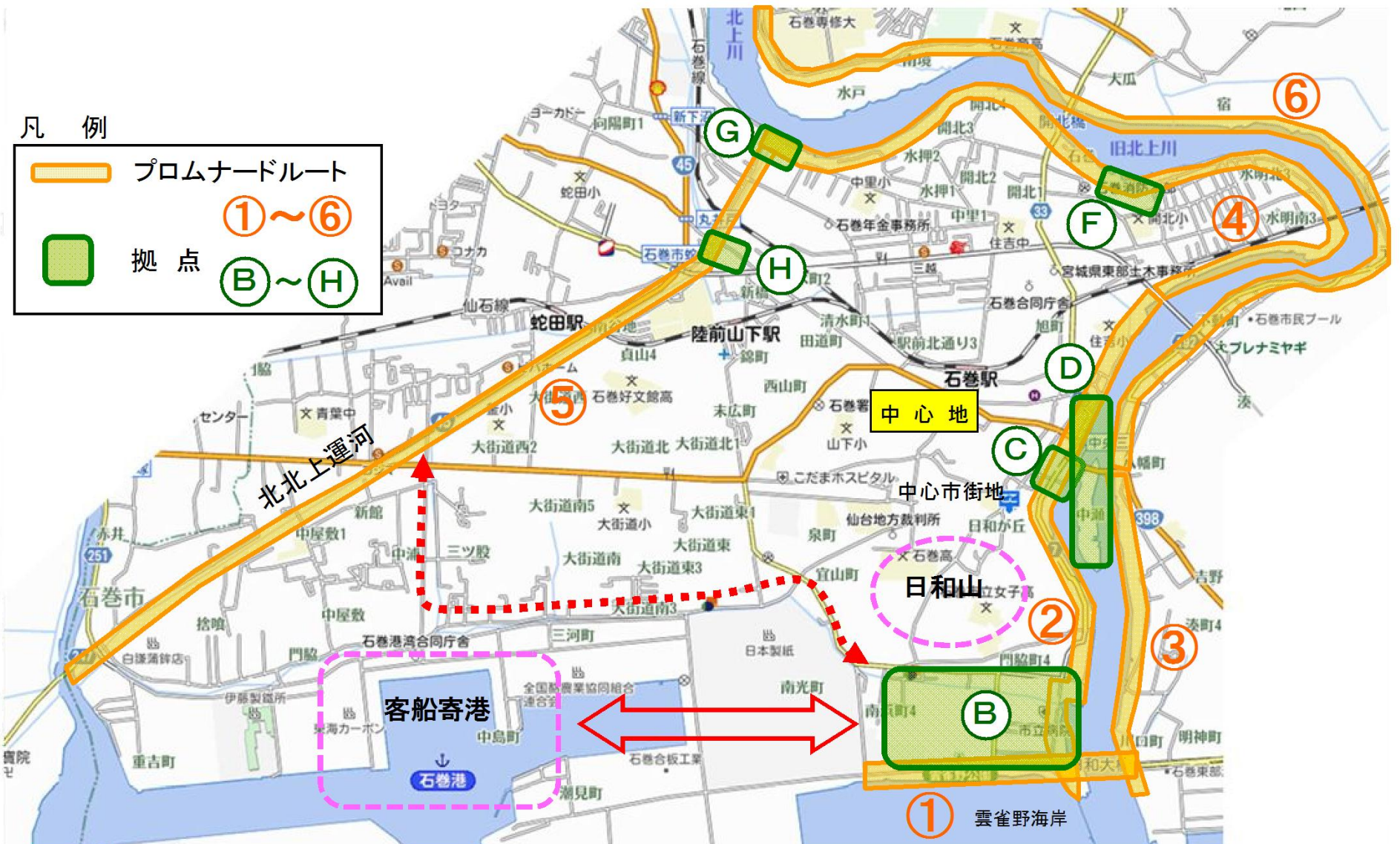
- ① 市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら歴史文化等を知る。
- ② 将来を担う子供たちに旧北上川との関わりを学び知ってもらう。
- ③ 人々の憩いと健康の増進。
- ④ 中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

※H23年2月計画策定直後、東日本大震災が発生。

下図は復興計画に基づく土地利用等を踏まえた、一部見直し後の計画案。

(平成24年10月3日 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画懇談会)

●いしのまき水辺の緑のプロムナード計画案 全体図 (H24.10.3懇談会)



※ 拠点AとEは、計画見直しの中で、拠点Bに機能を集約し、欠番となっている。

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画(案)抜粋

— 河川堤防を活かしたまちづくりの整備イメージ —

ルート
2 いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる
「旧北上川と石巻湊ルート」

※以下の内容はプロムナード計画懇談会の計画案(H24.10)の整備イメージ抜粋であり、関連事業については、今後の検討により変更があり得ます。

ルートイメージ

安全管理のため転落防止柵を設置

距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮

夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置(ライトアップ)

※もし人が落ちた時に上ってこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置

ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置

部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置

護岸イメージ

一部には水辺に触れることができ、昔の石積護岸を思い出すような護岸を設置する

水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置・水辺の変化を持たせる

拠点
C 雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する
「食彩・感動いしのまき」

拠点
D 川と共に暮らして「かわみなど・石巻」の歴史と文化の伝承
「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

拠点イメージ

背後地の市街地再開発イメージ

・緩やかなスロープにより拠点から水辺へのアクセス性を向上

・建物と堤防をテラスで一体化し、開放感のあるオープンスペースを創出

・様々なイベント開催などにより観光客を集める

・広々とした階段に座って川や中瀬の風景を堪能

・水際に変化をつけ、オープンカフェやイベント広場として活用する。一部階段を設置しアクセスを向上

・堤防天端と水際部が散策路となり、視点場を変えながら川の風景を楽しむ

※上図は堤防背後の再開発検討地区から水辺に至るプロムナード計画のイメージであり、今後の検討により変更があり得ます。

堤防と背後地再開発の接続イメージ

例1 プロムナードによる空間の創出

例2 プロムナードによる空間の創出

拠点イメージ

■住吉公園(雄島)周辺

- 昔を偲ばせる水辺との繋がりを重視した空間を創出するとともに、「雄島」や「巻石(まきいし)」を再生する。

○休憩・運動機能、親水機能

水辺に親しみながらゆっくり過ごすことができる場の創出

浅瀬をつくり、水遊びや釣りなどができる場所を再現

○水面利用機能

中瀬と市街地を結ぶ渡し船や、中瀬一周の周遊コース(ミクルーズ)などが考えられる。

○歴史・文化の伝承、歴史体験機能

昔の街並みや賑わいを感じさせ、その中で歴史や文化を学べる空間とする。

※堤防や公園、橋等の施設はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ルート
3 新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルートイメージ

夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置(ライトアップ)

距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮

安全管理のため転落防止柵を設置

部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置

ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置

※もし人が落ちた時に上ってこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置

※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

連続植栽のイメージ

・背後の土地を活用して桜堤や連続する植栽、並木道等により人々の集える空間と景観に配慮

・連続する植栽により生み出される空間では屋台など集客のためのスペースとしても活用し、ルートそのものが拠点性を持つよう工夫

水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置・水辺の変化を持たせる